



社会言語科学会ニューズレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 12 号

2002年5月31日

発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付

Fax: 044-911-1231 E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp

<http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

《巻頭言》

手近なウェルフェア・リングイスティクス

社会言語科学会理事
大阪府立大学総合科学部
野田 尚史

社会言語科学会の初代会長、徳川宗賢は、ウェルフェア・リングイスティクスを提唱しました。

(徳川宗賢(対談者: J.V.ネウストプニー)「ウェルフェア・リングイスティクスの出発」『社会言語科学』2-1, 1999.) これは、人を幸せにする、少なくとも、不快にさせないための言語研究と言ってもいいでしょう。

すぐにそのような研究を始めるのは無理であっても、せめて手近なところでその精神を生かす実践活動をしていくことはできないでしょうか。

たとえば、論文を書く場合を例にすると、次のようなことが考えられます。

●論文のタイトル・要旨を明確に書く

たとえば、日本語の若者語を研究している人が「若者語の造語法」というタイトルの論文を探し当てて取り寄せてみると、ドイツ語についてのものだったとします。その人は無駄な労力を使ったこととなります。内容が明確にわかるタイトルをつけておけば、他人への迷惑が少なくなるはずです。

また、たとえば、「東京の気づかれにくい方言」という論文の要旨に、どんな語についてどんな調

査結果が得られたかという結論ではなく、「気づかれにくい方言」の説明や、研究の意義、研究方法だけが書いてあるとします。その場合、論文全体を読まないと、その論文が自分にとって必要かどうかはわからず、時間を浪費します。要旨を明確に書くことも、ウェルフェア・リングイスティクス精神の実践になると言えます。

●特定の言語や文化に依存した表現を使わない

「左枝分かれ」や「右方転移」といった専門用語も、考えてみれば、特定の言語に依存した傲慢な用語です。文字は左から右に書くことを前提にした用語だからです。上から書く文字や右から書く文字があることを考えると、「左」や「右」より「前」や「後」を使うほうがずっとよいはず。

直接話法でも間接話法でもない、その中間的な話法にはさまざまな名前が使われます。描出話法、自由間接話法、中間話法、体験話法などです。これらの用語を使うときは、さまざまな背景の読者がいることを考えて、どんな人にもわかりやすい説明をするなどの配慮が必要でしょう。

このような手近な実践を積み上げていくことが社会の福祉にもつながっていくでしょうし、ウェルフェア・リングイスティクスの研究テーマを見つける糸口にもなるのではないのでしょうか。

(のだ ひさし)

2 ... 第2回徳川宗賢賞受賞者決定/博士論文一覧

3 ... 研究最前線: 石崎雅人

4 ... 『社会言語科学』: 特集号テーマの募集・書評候補の募集/会費納入のお願い/第10回研究大会のお知らせ

5 ... 『社会言語科学』: 『特集・コミュニケーションの社会言語科学』論文募集

第2回 徳川宗賢賞受賞者決定

このたび、第2回(2001年度)徳川宗賢賞受賞論文として次の論文が選考されました。

「ブラジル日系一世の日本語におけるポルトガル語借用 — その形態と運用 —」

久山 恵(ブラジリア大学)

『社会言語科学』第3巻第1号(2000)

受賞者には賞状と副賞40万円が贈られます。

授賞理由は以下のとおりです。

ブラジル日系一世の日本語におけるポルトガル語借用の実態をインタビューと自然談話データを使って調査・分析した実証的な研究である。論文の前半部は音声・音韻、形態、統語レベルにおける借用を外来語と比較しながら考察し、移民の時期やブラジル社会への同化度、ポルトガル語特有の形態の影響などが、外来語使用との異なりを作り出しているとした。後半部では談話における言語使用の実態に着目し、ブラジル社会というコンテキストの中でより豊かなコミュニケーションのためにポルトガル語が借用されていることを明らかにした。借用が一世たちのアイデンティティーや人間関係と深く結びついていることをホーリスティックに捉え、そこから日系社会の文化を炙り出した分析は、従前の借用研究には見られなかったダイナミックなものである。このような日系一世の日常生活に根ざした実態調査は前例がなく、一世の年齢を考慮すると今を逃してはできないものであり、そのタイミングを逃さず根気よく調査をした意義も大きい。現地に長期在住する日本人として、日系一世に対する深い理解力と研究者の鋭い洞察力をもってこの困難な調査を成功させ、貴重な研究成果として結実させたことが高い評価を得、受賞に相応しいと判断された。

受賞者の久山恵氏に受賞の喜びを語っていただきました。

徳川宗賢賞を受賞して

徳川宗賢賞受賞のニュースをいただきまして、本当に私の論文などが選ばれてよいのだろうか、喜びよりもむしろ申し訳なさがこみあげてきてしまいました。私がブラジルのブラジリア大学で日本語教育に携わるようになってから、はや10年になります。ブラジルでは多くの日系の方々に接し、毎日の生活を通して、彼らの話す日本語がそこで生き生きと自分の場を築いていることに興味を覚えました。そこで、調査を始めたわけですが、今回の賞は、貧給に耐え、地道な奮闘!?を重ねてきたことへのご褒美と励ましと解釈させていただきまして、心から有難く受けさせていただくことにいたしました。この場をお借りしまして、論文作成掲載にあたりお世話になった当時の『社会言語科学』編集委員長、荻野綱男先生、イシューエディター、ダニエル・ロング先生、そして、サンパウロ大学鈴木妙先生、ブラジリア大学上甲民江アリセ先生、さらに調査に協力くださったブラジリアの日系一世の皆様にお礼申し上げます。

博士論文一覧 (2001年8月25日~2002年5月17日受付分)

- 少数言語の維持・復興における「人為性」—カトリック地域のソルブ語を中心に (2001年3月)
木村護郎クリストフ
博士(学術) 博士号授与機関: 一橋大学大学院言語社会研究科
- Language Contact and Change in Micronesia: Evidence from the Multilingual Republic of Palau
松本和子 (2001年4月)
博士(社会言語学) 博士号授与機関: 英国エセックス大学大学院言語学研究科
- 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、2001年度の博士論文一覧を、順次、ニュースレターに掲載する予定です。(1)論文タイトル、(2)著者名、(3)博士号授与機関、(4)取得年月、(5)博士号の専攻分野の情報を下記までお送りください。要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください。

研究最前線

コミュニケーション能力の科学

石崎雅人

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科

最近、対話/会話において、コミュニケーション能力と呼んでよいものがあるのではないかと考えています。コミュニケーション能力といっても、上司、部下、友人とうまくやっていくコツのことでなければ、単語や構文の習得の度合を測る言語能力試験といった類のものでもありません。ある社会に生まれて、生きていく中で誰でも必ず身につけられる能力という意味で、生成文法における言語能力に対応するものです。本コラムでは、このコミュニケーション能力を中心に、考えていることをまとめてみます。

対話/会話におけるコミュニケーションは、実時間に行なわれる非言語・音声・言語の多レベルにおける相互行為ですから、円滑なコミュニケーションを可能にする能力には、少なくとも2種類のものを考えることができます。1つは、実時間性を可能にする次発話に関する情報の利用です。発話末の韻律や統語情報と話者移行箇所らしさの相関情報、フィラーの種類と発話のタイミングや発話内容の肯定/否定の相関情報(相手が「えっと」という場合は、すぐに答えてくれそうだとか、「うーん」と言ったときは、なかなか答えが返ってこないか、答えが否定的であるといったもの)の利用などが、その例です。もう1つは、相手の状態/反応に応じて、自分の次発話を調整する能力です。例えば、相手がある単語を聞き取れていないと思った場合、少し大きな声で、一文字一文字ゆっくり話したり、ある概念が相手にわかりにくいと思った場合、相手の反応を見ながら、表現を変化させていくような能力です。

生成文法における言語能力は、守らなければいけない制約を規定することにより、文の受理可能性を2値的に予測します。これに対

し、コミュニケーション能力は、非言語・音声・言語において優先的に生起する行為の集合として規定され、統計的に理解されます。統計的とは、ある人のコミュニケーション行動を長期にわたって観察したり、多くの人の言語行動を観察すると、ある状況で、ある行為が生じやすいことがわかるといった意味です。生成文法における言語能力は、まず理想的な能力について考え、その後、その能力に対する理解をもとに、多様な要因を含む言語運用について考えようという研究プログラムでした。コミュニケーション能力と運用の場合は、実際のデータから、運用を支える能力およびその性質を明らかにし、その知見をもとに、運用を考えるというように、能力と運用の研究が密接に関係しながら発展していく研究プログラムになります。

コミュニケーション能力に関する研究を実証的にすすめるためには、さまざまな研究分野で共通に利用できる大規模なコーパスが必要になります。コミュニケーションに関する研究分野において、データ収集、分析は現在でも行われていますが、これらのデータは、収集、分析のコストがかさむことから、十分な大きさを持っていなかったり、研究目的に強く制約されたもののため、他分野(極端な場合、その研究以外)では利用しにくい場合が多かったように思います。共通に利用できる大規模なコーパスは、異なる研究分野の共通の基盤を提供するだけでなく、コミュニケーション能力と運用に関する研究の実りあるインタラクションを可能にするでしょう。もちろん、大規模な共用コーパスの構築は、「言うは易し、行なうは難し」です。しかし、その必要性については、本学会を始め、分野の枠を超えて認知され、いくつか試みがなされています。

大規模な共用コーパスの構築とコミュニケーション能力の解明、私は、この2つを中心に、今後の研究をすすめていきたいと考えています。

学会誌 『社会言語科学』

特集号テーマの募集

『社会言語科学』では、特集号を発行しています。これまでに「日本の言語問題」(第2巻第1号)、「日本語と言語接触」(第3巻第1号)、「電子社会の言語科学」(第4巻第1号)の特集が実現し、現在「言語の対人関係機能と敬語」(第5巻第1号の予定)、「コミュニケーションの社会言語科学」(第6巻第1号の予定)の特集が進行中です。よい特集のテーマがありましたら、学会誌編集委員会委員長までご提案ください。

学会誌編集委員会委員長 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp ("l"は英字のエルです)

書評候補の募集

『社会言語科学』では、毎号2、3本の書評を掲載してきました。書評欄の一層の充実をはかるために、学会誌編集委員会内に書評担当編集委員をおきました。よい書評候補がありましたら、書評担当編集委員と学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。ご推薦には、①書評対象図書名、②書評候補者(会員に限る)、③図書への推薦理由(2、3行)をお含みくださり、書評担当編集委員と委員長の両方にお送りください。なお、書評の投稿につきましても、従来通り受け付けます。

書評担当編集委員 渋谷 勝己 E-mail: shibuya.katsumi@nifty.ne.jp

学会誌編集委員会委員長 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp

2002年度会費納入のお願い

一般：7,000円 学生：5,000円 団体：10,000円 *ODA対象国在住の会員の会費は当分の間半額とします。

○国内会員 郵便振替口座 加入者名：社会言語科学会 番号：00210-2-87060

○海外会員 (下記の3通りのいずれかの方法でお振込ください)

①日本在住の知人に依頼して、上記の郵便振替口座に振込む

②銀行振込 振込先：東京三菱銀行(Tokyo-Mitsubishi Bank) 返子出張所(Zushi Branch 321)

口座名：社会言語科学会(Shakai Gengo Kagakkai) 口座番号：普通 0388545

*お振込みいただいた際には、事務局までご連絡ください。

③クレジットカード(VISA, MASTER, AMEX)利用

事務局に、(1)カード名、(2)個人番号、(3)有効期限、(4)カード上の署名、をお知らせください。

ただし、E-mailでの連絡は悪用される可能性がありますので、郵送かFaxを利用されることをお勧めします。

E-mailでのご連絡によって生じたトラブルについては学会は責任を負えませんので、ご注意ください。

※会員の皆さんへお願い※

○会費が未納ですと、学会誌やニュースレターの送付を受けることができませんので、早めに納入してください。

○学生会員の場合には、当該年度の身分証明書のコピーを事務局まで送ってください。

○学会誌・名簿の返送が多くなっています。住所変更など個人情報に変更があった場合には、すみやかに事務局までご連絡をお願いします。

第10回大会は以下の予定で行われます

ご予定に組み入れて多数ご参加ください

期日 2002年9月21日(土)、22日(日)

場所 東北大学 川内北キャンパス

所在 〒980-8576 仙台市青葉区川内 (http://web.bureau.tohoku.ac.jp/campus_guide/map.html#kawauchi 参照)

開催校・連絡先電話 022-717-7800 (代)

交通 JR 仙台駅前バスプール、のりば9から市バスで約10分「扇坂」下車

特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「コミュニケーションの社会言語科学」の論文を募集しています。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の締切： 2002年11月30日(土)

掲載号の発行： 2003年7月(第6巻第1号に掲載予定)

お問合せ先： 学会誌編集委員会委員長・岡 隆

E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp Fax: 03-3815-6673

〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会心理学研究室

特集・コミュニケーションの社会言語科学

社会言語科学会は、人間相互のコミュニケーションあるいは言語の機能を特に重視したトランスディシプリナリーな学会として、1998年1月24日に創立されたと、学会誌創刊号の巻頭言にある。5周年を迎え、ここに、コミュニケーションそのものをテーマとした特集を組みたい。

コミュニケーションは、いうまでもなく相互的な行為である。ここ百年ほどの近代言語学の歩みをふりかえると、言語は、理想的な一人の話者が有する抽象的な体系として捉えられてきた。こうした言語観が、豊かな価値ある知見を生み出してきたことはまぎれもない事実である。しかしながら、われわれはいま、パラダイムの転換を迫られている。

異質な他者との相互作用の中で、変化しながら、実時間とともに進展するコミュニケーション。この動態をあやまりなく正確に捉えるモデルが、学問として求められているのである。その姿は、言語のしくみとして解明される必要があるとともに、言語それだけに閉じたものではない。コミュニケーションとは、人間が、相互に行うものである。とすれば、ことばを超えた、人自体の営みとして、個人と社会の両面に考慮しつつ、包括的にこれを捉える視点がなければならない。社会言語科学会が、トランスディシプリナリーな学会としての性格を有するのは、必然的な要請の結果なのである。

特集は、総論と、各論、および応用論の三部から構成したい。

総論は、それぞれの学問的発想からコミュニケーションを捉えなおし、位置づけ、今後の展望を示す論を募集する。総論は、理論的な整理を主として行う研究であってよい。たとえば、「社会心理学からみたコミュニケーション研究」といったようなもの。

各論は、個別の事象を、コミュニケーションという観点から記述あるいは再考する、実証的な研究を募集する。説明にまで及んでいなくても、良質な記述に成功していることを大切にしたい。

応用論は、コミュニケーションの観点から、今日の現実的な課題を整理し、その解決を模索する、具体的な事例を含んだ論を募集する。言語教育や情報処理はもちろんのこと、気がつきにくい問題点を指摘する論も歓迎する。たとえ少ない事例であってもかまわない。課題との関係が具体的かつ説得的に示されていることが重要である。

どの部門に関しても、コミュニケーションという観点から各自が問題そのものを発見し、魅力的な題を提示し、論を展開していただくことを望んでいる。テーマがコミュニケーションに関係したものであれば、題には「コミュニケーション」という術語を含まなくてよい。希望部門の記入は、あればよいがなくてもよい。最終的な配置はおまかせいただきたい。

多様な経験を持つ会員の、多様なディシプリンから発想された、多様な切り口の論が並び、結果として現代のコミュニケーション研究の現状と課題が総合的に浮かび上がるような特集号になることを願っている。会員の皆様のご努力とご協力をおおぐものである。

(イシューエディタ：沖 裕子)

【ご注意】

ニューズレター第11号に、誤植がございました。

特集のタイトルを「コミュニケーションの社会言語学」とご案内いたしました。正しくは上のように「コミュニケーションの社会言語科学」です。訂正してお詫び申し上げます(事業委員会)。

学校法人江副学園

URL <http://www.sng.ac.jp> MAIL office@sng.ac.jp

私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は、1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人は新宿日本語学校（略称SNG）とカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称CLC日本語学校）の二つの日本語学校を経営しています。私達は、日本語教育に陽があたらなかった時代に細々と学校を運営してきました。私達なりのそうした苦勞の結果迎えた学校法人設立です。公益法人となった今、若い研究者の育成のためにささやかな資金援助をすることも、それが意義がある限りは、私達の目的の一つと考えています。



「日本語教育 25年の軌跡」(発行・新宿日本語学校)

今日、多数のアジアからの学生が来日しているのを見て、日本語教育はアジア中心にスタートしたと思われるかも知れません。しかし、私達は日本語学校を開いた1975年(昭和50年)の私達の学校は欧米の学生であふれていました。

当時は中国や韓国の学生は、特別な許可を得た人でなければパスポートを手にすることは不可能だったのです。そうした一般日本語教育が芽を出し始めた頃の日本語学校の姿を伝える貴重な一冊です。ここには、1975年から1985年までの10年間の機関誌が縮刷版のようにして集められています。また、文部省(当時)が最初に一般日本語学校に委託した昭和58年度の委託研究の成果「ワープロを利用した日本語教授法」も掲載されています。御興味のある方は当校まで。 定価2000円(税別)



学校法人江副学園

新宿日本語学校

169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

Tel 03-5273-0044 Fax 03-5273-0018



学校法人江副学園

CLC日本語学校

169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-16-13

Tel 03-5273-0753 Fax 03-5292-3180

優れた意思決定をサポートするパワフルな分析ツール 「SPSS 11.0J for Windows」



優れたデータ管理、分析レポートとモデリング。貴方の研究に大いにご活用ください！

再構成ウィザード

SPSSを使用して分析を進める際、最も時間がかかるのはデータ加工ではないでしょうか。分析の対象としたいデータがSPSSの分析に適応した形式となっていない場合のデータ加工をサポートする「再構成ウィザード」がSPSS11.0より追加されます。

比率分析

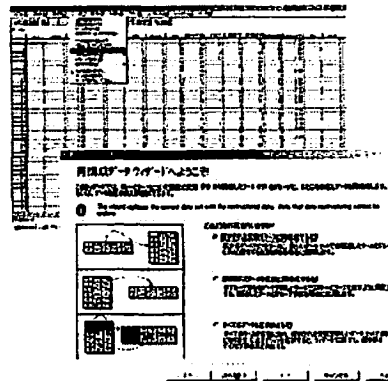
新しい比率分析は敢らばりの係数、変動係数、価格に関連する差異、および平均絶対偏差を含む2つのスケール変数の比率を描写する要約統計量のリストを備えました。

線形複合モデル

入れ子のデータ構造をもっている場合、新しい機能によって予測モデルを構築することができます。固定効果ANOVAモデル、無作為化完備ブロック デザイン、分割法デザイン、純粋変量効果モデル、変量係数モデル、多重レベル分析、無条件線型成長モデル、人レベルの共変量による線型成長モデル、反復測定(経時的変化)分析、および時間依存の共変量による反復測定分析を含むさまざまなモデルを公式化することができます。さらに被験者間で観測数が異なるような不完備反復測定デザインも行うこともできます。Advanced Models オプションで使用可能です。

パフォーマンスの強化

一般線形モデル、近接、階層クラスタ分析(Base システム)、および多項ロジスティック回帰(Regression Models)が以前のバージョンよりパフォーマンスが向上しました。



<教育機関に携わる皆様へ>

授業で SPSSをお使いの先生方に様々なアカデミックパッケージをご用意しております。

- ・ サイトライセンス契約~教室など複数台でご利用になる場合
- ・ ☆ 学部、大学全体での大規模導入に最適な「無制限ライセンス」もご用意しています。
- ・ Graduate Pack~学生の自習用に...学生専用廉価版特別パッケージ

詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。



エス・ピー・エス・エス株式会社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエア7F
Tel:03-5466-5511(代) Fax:03-5466-5621 e-mail:jpsales@spss.com URL <http://www.spss.co.jp>